

しば子先生の 芝生教室



先生：前はちょっと昔話になってしまったけど、資料も情報も今に比べて少なかった昭和の時代でも研究して素晴らしい管理をしていた人もいたのよ・・・

生徒：そうですね、ちゃんとした土壌分析も無く、土壌水分計なども無く、農薬も肥料も機械も今に比べたら性能も選択肢も少なく・・・まあ夏の暑さは今より少しはましだったかもしれませんが・・・

先生：そうね・・・ただ昭和の時代はひよっとしたら管理予算は今よりあったかもしれないわね・・・それに人もたくさんいたから予算さえあればコース課の人海戦術も使えたわね・・・

生徒：そうなんですわ・・・バブルも崩壊し、コロナでおかしくなって今は全く違う世界になってしまいましたわね・・・

先生：全くその通り・・・温暖化も年々激しくなっているし・・・物価も人件費も増える一方で・・・

生徒：しかし、これだけいろいろ情報がある中、未だに「窒素を撒くと芝が枯れる」とか都市伝説みたいな話がまかり通るのはどうしてなのでしょうね・・・

先生：そうね・・・私のアドバイス通りに管理している所では正しく十分に窒素をあげてほとんど大きな問題もなく一年間管理しているんだけど・・・

生徒：その勘違いの原因は何なのでしょうかね？

先生：たぶんほとんどの人は実際に窒素肥料をあげて枯らした経験は無く、出入りの業者さん達やそれを信じているキーパーさん達の話やそれを鵜呑みにして信じているケースが多いと思うわ・・・

生徒：そうなんですわ・・・でも誰かがトラブルを経験して言い出さないとそんな話にならないですよわね・・・

先生：そうね・・・窒素肥料をあげて芝が悪くなったと主張する人の実際の話を直接会議で聞いたことがあるわ・・・その人はあるとき試しに窒素肥料、多分尿素ね・・・それをたくさんベントグリーンに撒いたらどうなるか試したことがあると言っていたわ・・・

生徒：なるほど、どのくらい撒いたのでしょうかね？

先生：はっきりとした施肥量は言っていなかったけど、もともと窒素は悪だと思っているようだからあげたとしても数グラムでしょうね・・・

生徒：それでどうなったのでしょうか？

先生：それがね面白いのよ・・・その窒素を撒いたらすぐに、今までに見たことがないくらい素晴らしいグリーンになったと言っていたのよ・・・

生徒：え？それじゃあ窒素はすごくいい肥料じゃないですか？

先生：私もそう思ったわ・・・でも本人曰く、でもその素晴らしい状態は長く続かず、1ヶ月後にはひどい状態になったと言っていたわ、その結果から窒素肥料は良くないと結論したらしいの・・・

生徒：え～それって撒いた尿素的窒素が1ヶ月後に切れたという事じゃないですか・・・

先生：私もそう思ったわ・・・つまり問題点は窒素肥料がどのくらい効果を維持できるのかを理解していないのが誤解の原因だということだわね・・・

生徒：この芝生教室で何度もテーマになっている問題ですね・・・

先生：窒素施肥の問題はそこなのよ・・・特に排水性を良くした CEC の低いサンドグリーンでは、尿素有液肥で撒いても数日、下手をすれば数時間で効果がなくなることもあるわ・・・

生徒：それに加えて土壤微生物による脱窒や流亡・・・

先生：しば代ちゃんはちゃんとわかっているわね・・・一言で窒素肥料と言っても芝生が吸収している窒素には二つの形態、つまりアンモニウム態窒素と硝酸態窒素があり、そしてこの二つの吸収形態や土壤中での性質が違うために窒素肥料の効果や持続期間が条件次第で全く違うということ・・・例えば雨や土壤温度、CEC、有機物量などによっても激しく変わる・・・

生徒：本当に窒素肥料のコントロールは難しいですね・・・だからこそ緩効性の技術が必要なのですね・・・

先生：そのとおりよ・・・異常気象の時代にはますます重要ね・・・あと業者さんが窒素を悪者にしたがる理由の一つには、窒素肥料が儲からないと言う理由もあると思うわ・・・尿素とか硫安なんか売ってもいくらも儲からないし、中身が良くわからない効果の出ない物の方が儲かるし、それに間違っても使っても全然焼けたりしないし売りやすいのよ・・・でもそれではお金がいくらあっても良い管理は出来ないと思うけどね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

